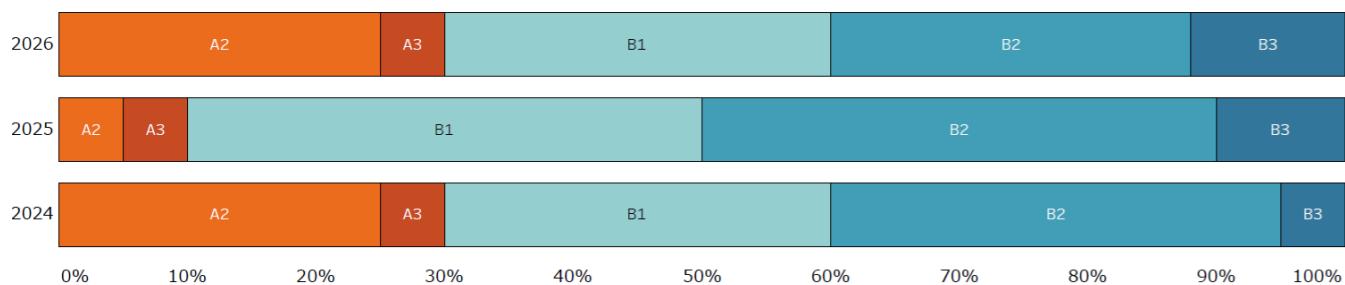


2026年 浦和明の星女子 算数（第1回）

過去3年の思考コード別出題割合は次のようにになります（Aは基礎的な知識・技術、Bは論理的な思考力が問われる問題。数字が大きいほど難度も高い）。出題分野の構成は、ほぼ例年通りでしたが、2025年と比べるとなじみの問題が増え、取り組みやすい印象を受けました。大問3までキッチリ取り、大問4以降の取れるところで得点を積み重ねていくことになると思います。



例年同様、大問1が計算・一行題、大問2以降が大設問の構成でした。大問1は、確実に得点しておきたい問題が並びます。(5)、(6)、(7)では①、②とステップがあり、取り組みやすくなっています。(1)の計算は手間がかかりますが、焦らず確実に得点したいです。(2)～(5)は、一度は目にしたことのある基本的な問題で、どれも正解したいです。(6)は、数を推理する問題です。条件から数が確定できるので、見た目ほど手間がかからないと思います。(7)は、反射の問題です。苦手とする受験生も多い分野ですが、反射の基本が身に付いていれば取り組みやすい問題だと思います。

大問2は、3種類の食塩水です（2025年も3種類の食塩水で「蒸発」が出ていました）。食塩水のやり取りを整理していくことで答えにたどり着ける基本的な問題です。(3)まで確実に得点しておきたいです。大問3は、速さの隔たりグラフです。浦和明の星でも過去に出題がありました。類題に取り組んだことがある受験生も多いと思います。ここも(3)まで得点しておきたいです。

大問4は、差集め算です。ここで一気に難度が上がりました。苦手とする受験生も多い分野となるため、全く手が付かなかった受験生も多数いたと思います。箱の入れ方の違いから生まれる「差」に注目します。「大きな箱6と小さな箱3」「ミカン $101 + 25 = 126$ (個)」「大きな箱9と小さな箱18とミカン 101 個」を利用してミカンの個数を求めます。(2)は手間がかかるため、見送って次の問題に進んでよいと思います。

大問5は、浦和明の星で頻出の調べる問題です。題意がとらえられず、(1)①の解答で終わってしまった受験生多かったと思います。「隣り合う差が1になる」ため、右に+1進むとき、何番目かで-1することになります。つまり、右に+1ずつ□回進むとき、どこで1回だけ-1するかを調べる場合の数と置き換えることができます。(2)①では、1番目に0が入る点に注意します。

大問1～大問3は確実に取っておきたいです。大問1～大問3で取りこぼしがあると大きな差となります。しっかり得点を確保したうえで、大問4、5の取れそうなところに残り時間を使うといったところでどうでしょうか。